

事務局長を拝命して



福井 俊司

2024年4月末より事務局長を拝命しております福井です。

2023年9月までは島津製作所及び関連子会社で主に海外事業に携わっておりました。分析化学とはほとんど縁のない仕事でしたが、海外へ出張するたびに、諸外国が教育や研究開発に国家を挙げて取組む姿勢とその国々の学生の向上心には驚かされ、翻って日本はどうだろうと漠とした危機感を覚えることがしばしばありました。今回事務局長にとの話をうかがったとき、日本の学問・学術・研究に事務方として少しでも貢献できることがあればやりがいがあると思った次第です。

これまでの本会の状況を聞き、以前制定されたタスクフォースを拝見すると、本会の置かれた環境が非常に厳しいものであったこと、そして事務局も苦しい時期を経てきたことが理解できます。その中で事務局運営を支えてこられた柿田前事務局長をはじめ職員各位の努力には、心より敬意を表します。

幸いコロナは終息し、本来の目的である分析化学の情報交換と進歩発展への取組みがやり易くなってきて、諸行事や支部・研究懇談会の活動が再び活発になろうとしています。事務局は、そのような活動が円滑に、さらにグレードアップしていけるようにサポートするのが使命であると思います。日常の業務は地味なものでしょうが、会員各位へのサービス向上を心掛け、業務効率の改善を図り、何かにつけ頼りにされるような事務局になりたいものと思います。

事務局へ来て最初に感じたのは、少しずつでも職場の美化を図ることが必要であるということです。職員がより気持ちよく仕事をできるようにするのは大事なことです。同時に、本会会員がいろいろな会議を企画する際に事務局会議室を使おうと思われようようにしたいと考えています。事務室内の整理を始めており、使い勝手・居心地も徐々に良くしていくつもりです。五反田の事務局会議室で会議を行う機会が増えれば、それだけ先生方と職員が顔を会わせて話す機会も増え、コミュニケーションはさらに改善されてくるはずですよ。

先般、理事会において山本会長より「日本分析化学会の未来戦略構想(JSAC2024)」の検討に着手しようとの提案があり、検討会が発足しました。本会の在り方・これまでの取組みを振り返り、将来構想を練るには非常に良い時期であろうと思います。そのなかで事務局に対する期待、要望も出てくるでしょう。それらを真摯に受け止めると共に事務局の将来構想も同時に考えていきたいと思っています。

〔FUKUI Shunji, 日本分析化学会事務局長〕